

ようこそ不思議な石の世界へ 12

岸和田市立きしわだ自然資料館

1.宮沢賢治(みやざわけんじ)を知っていますか？

宮沢賢治という人を知っていますか？ そう、正解！『銀河鉄道の夜』、『注文の多い料理店』、『グスコブドリの伝記』、『風の又三郎』などの童話や『雨ニモマケズ』という詩を残した有名な作家ですね。それでは、その宮沢賢治が「石っこ賢さん」と呼ばれるほど石が好きだったことはどうですか？ じつは子供のころから石集めに熱中し、農学校では地学や化学の勉強をしていました。大人になってからも、石にかかわる仕事をしようと考えていたのです。



花崗岩ベグマタイト中の
微斜長石、水晶、雲母
岐阜県恵那市田原

ですから、宮沢賢治の作品には鉱物や地質のことがたくさん出てきます。『銀河鉄道の夜』には化石を発掘している古生物学者が、また『台川』には生徒を地質の見学に連れて行く先生が登場します。『檜の木大学士の野宿』という作品には鉱物が集まって人間のように会話をする場面があります。ちょうど、左の絵のような感じですね。

そこで、今年は「宮沢賢治と地学」をテーマに、きしわだ自然資料館の収蔵品の中から鉱物、岩石、化石の標本を展示します。実物の標本を手にとり、地学と文学のかかわりを考えてみてください。

【参考文献】

- 1.宮沢賢治全集、ちくま文庫、(地学をモチーフにした作品は特に第6集に多い)
- 2.宮沢賢治 農民の地学者、宮城一男(著)、築地書館、1989

2.スンプ法で型取り実験！

スンプ法（鈴木式万能顕微印画法、Suzuki's Universal Micro Printing）は、今から80年も昔にグンゼの鈴木さんが発明したレプリカ作成法の一つです。最初、動植物の繊維を観察する方法でした。地学の分野では、微小な化石を研究する手段の一つとして利用されたことがあります。スンプ法は走査型電子顕微鏡の普及で、今はあまり利用されなくなりました。しかし、費用と時間がかからない簡単な表面観察の方法として、とても面白いものだと思います。

私たちのブースでは、入手しやすい材料（ホットボンドやホットメルトという名前で100円ショップでも買えます）を使って、日本人が発明したスンプ法を体験する実習をおこないます。微化石だけでなく、鉱物の表面構造（条線、成長丘、エッチピットなど）の型取りもやってみましょう。